

觀世流改訂儒本

別三

放生門
須廣操
却條
松虫
一角仙人



觀世清之
長之世

明治四十三年七月十日印刷
明治四十三年七月十五日發行

訂正者、檢印
十キモ、八偽版也

東京市麴町區中六番町二十九番地

訂正兼 發行者 丸 岡 桂

東京市下谷區二長町壹番地

印刷者 塚原錦三郎

東京市下谷區二長町壹番地

印刷所 凸版印刷株式會社

東京市麴町區中六番町廿九番地

發行所 觀志流改訂本刊行會

電話番町二五四四番



放生門

八月

シテ
ツレ
ワキ

武内の神前老人
男
鹿島神職

三入
ツマ

静敷を仰ぐ汝君のく四方を

静なりけれ ワキ内 そもくられぬ麻

鳴の神職筑波の行某の秋が事

なりきてもとの度都より洛陽の

寺社残なく拜又出るといふ又今日

南条の由承りに向ハ情は兼信申さる

心とちがふの たひ 曇るなき都の山は乾
 ぼくは ウ 氣多しめさそでなな幡ふ
 伏見の里も昔からぬ鳥羽の細道も
 過ぎては渡の徒橋あはまももよおな
 一 コキ 神奈川八幡の裡は着きさるけり
 一 コキ 急ぎさる狼はくわいたまや八幡の
 里は着きさる心静るはは葉申あがず

るまていツレ二人 眞マコト声コエ けしきららづれば生けるを放ら

す。はらふも動くや秋の水 けしきら松の

叶までツレ二人も神カミは惠メデみの勢イサやうんツレ二人これ

國クニを治シめ人ヒトを教シへ善タカシを賞メり悪クナシを去ルる

事コトすななる律リツ代ダイのたとめありニ人。あるが

故ユヘは知チれるるるよよく萬マン徳トクを得無ム知チ

らら又マタ惠メデ又マタよよ痛イタひひああののづづからから積シヤク善ケンのの餘ヨ

らら又マタ惠メデ又マタよよ痛イタひひああののづづからから積シヤク善ケンのの餘ヨ

方ハ雨つもられぬ濕海して枝を鳴ら
さぬ松の叶代の勢の又いや増しよ。

中ノ載イタミといふふ。社あななく！ツキハいふふれ

なる翁の守ぬも事のなら ことあた
の事よてふら行事よてふらぞツキけよ
のハ幡のほちもふらとて。皆の清淨の儀
式の法なるも。皆のあつたなる魚と

とて放せよといふは、つゝを放つ糸ぞ

あつて、信じて居るに、おまんだる魚を具

め、おとて ^{ツカレ} 放せよ、おまんだる魚を具

らぬ事とな宣ひそ ^ス 具の上人の又 ^{モン}

を聞よ。 ^{ツカレ} 方便の教をたよ。 ^{ツカレ} 善持の方

行よ ^{キヨホ} 起るよ、おまんだる魚を具

けるを放せよ。魚は逃れゆらぬ、おまんだる魚を具

抄^{コト}まひの^{羊かん}綱^{ツナ}は^{ツク}漏^ルれぬ^中神^{カミ}の^サ惠^イ又^{マタ}を^タ仰^{オホ}ぐ
 あり^{ツク}て^{ツク}あ^{ツク}ら^{ツク}ず^{ツク}た^{ツク}ま^{ツク}は^{ツク}事^{ツク}あ^{ツク}な^{ツク}。か
 て^{ツク}く^{ツク}ま^{ツク}ひ^{ツク}の^{ツク}放^{ツク}つ^{ツク}た^{ツク}る^{ツク}。そ^{ツク}の^{ツク}は^{ツク}ら^{ツク}た^{ツク}れ
 へ^{ツク}る^{ツク}ぞ^{ツク}。異^{ツク}國^{ツク}の^{ツク}時^{ツク}は^{ツク}多^{ツク}く
 の^{ツク}敵^{ツク}を^{ツク}て^{ツク}ほ^{ツク}給^{ツク}ひ^{ツク}。幾^{ツク}生^{ツク}の^{ツク}善^{ツク}根^{ツク}の^{ツク}そ
 け^{ツク}為^{ツク}よ^{ツク}。放^{ツク}ぎ^{ツク}の^{ツク}序^{ツク}般^{ツク}を^{ツク}起^{ツク}し^{ツク}給^{ツク}よ^{ツク}。
 ま^{ツク}れ^{ツク}を^{ツク}聞^{ツク}け^{ツク}ず^{ツク}あ^{ツク}ら^{ツク}ず^{ツク}。ま^{ツク}て^{ツク}く^{ツク}

けるを教つたる。川の何れの程をさへ

^{シテ}岸^{シテ}流るは川の^ワ水^ガ濁りも神徳

の^ワ整^カひの清き^イ清水^シの^{シテ}末^ニ

つぞ^ワ川の^{シテ}岸^ニは^{シテ}流^ルる^ト水^ト桶^トよ

^上取り^入る^ル流^ルる^ルを^シ放^スき^ンと^ク

裳^モ裾^スも^ト同^シ袖^スひ^キち^ツて^テ結^スば^ヤみ^ツら^フ

水^ツ桶^ツの^ツ水^ツ底^ツは^ツ洗^ハれ^ズぬ^ル魚^ノの^ツ悦^ビ喜^ビ

ありや水と穿ちて岸陰の潭荷葉
 動くらぬ魚の存ぶ有様のげよも生
 けるを放つなら御誓ひあゝたなり

けり ワヤ 社ノのまろ子密シは御物

悟りカケの心カもカ当社と申まゝ

欽明天皇の昔より光二百餘歳の世

を經て此より移りおまゝテすテ

宗廟の神として。序代を尊り國
 家を助け文武二つれ道廣く九重續
 く八幡の神をも所名に八つれ文字
 引の法佛出世のおま宮真性不生
 の道を示し。心道を顯せし人佛
 不二の持心として。心直しめり宿り
 存よウクの國より終る玉他の人より

放生川

六

も我々人と誓をせむは清惠及びは
ありがたや我々如くしあむかき。其
ひを照り給まんの其出誓給まはあ
たり。行教和寺の持法の袖は敷らる。
花の都を守ること。南にやすすむ日
れ。老るも三つは衣なよ映り給へりさ
れがあら宗廟の時羽ある若代の

夫ぐある道と顯せし國富又民の
 竈まで眼を以鄙れ貢きよ四海
 の波も静りなり利益法衆生
 け侍格を以二素女集れ邪徳ハ穢業
 中ノ勇山ヨリ松立てる楮も茶も
 修く凡ら又家々宰相の聲きよめて
 け山神樂其外甲神樂懺悔ハ心

教三川

二

夢^{ユメ}覚^サめ^メの^ノ夜^ヨ祭^{サエ}も^モら^ラさ^サ神^{カミ}さ^サび^ビて^テ日^ヒ
 わ^ワげ^ゲろ^ロの^ノ石^{イシ}清^{スミ}水^{ミヅ}は^ハ法^{ホウ}ら^ラぬ^ヌお^オ誓^{チカ}ひ^ヒら^ラ
 な^ナげ^ゲは^ハ法^{ホウ}ら^ラぬ^ヌお^オ誓^{チカ}ひ^ヒら^ラな^ナ。^ナ
 あ^アり^リさ^サま^マ老^{ロウ}人^{ニン}よ^ヨ。^ヨ
 女^メ綿^{ワタ}し^シで^デは^ハ神^{カミ}の^ノ苦^クび^ビる^ルあ^アり^リも^モた^タ
 わ^ワ代^トは^ハは^ハら^ラさ^サ女^メ。^メ
 喜^キ秋^{アキ}と^ト送^{オウ}り^リぬ^ヌ入^イて^テ神^{カミ}徳^{トク}を^ヲ傳^ツけ^ケ